

草の実分校 実践報告

生徒について・現状

- ◎ 側弯があり、利き手である左手で作業を行うと身体が左側へ傾きがちである
- ◎ 斜視が見つく、見え方に課題がある
- ◎ 他人との関わりが大好きで、関わってもらえると声を出して喜んだり笑ったりする
- ◎ 他人との関わりがないと、授業に集中できないこともある
- ◎ 日常使う簡単な言葉を理解し、「はい」、「いいえ」の意思表示ができる
- ◎ 電動車いすの操作は、目で目印等をとらえられていることもあるが、手の感覚のみに頼ったり、周りの音に反応したりして集中できないこともある
- ◎ 普段は、電動車いすの練習に苦手意識をもっている

保護者の願い

- ◎ 電動車いすの運転技術の向上
- ◎ VOCA の利用も含めて、コミュニケーションの機会を増やす

課題

- ◎ 視野の狭さ、眼球の動き
- ◎ 姿勢の保持
- ◎ やる気の維持

目標

- ◎ 正しい姿勢で車いすを操作することができる
- ◎ 目的を意識し、集中して活動することができる

取組み① 時間を区切って活動する

「電動車いすの練習」の前に、「手指の活動」として、「棒抜き」や「ピン球入れ」を行った。1つひとつの活動時間を短くし、前半に「できる」活動を積み重ねて、やる気を高めた。



取組み② 『指示の出し方』と『正しい乗車姿勢』

電動車いすの運転は、右手を車いす付属の台に固定し、左手でハンドルを操作した。ハンドルは、親指、人差し指、中指を中心にしっかりと握り、手が外れてしまったときはその都度正しい持ち方になるよう促した。

また、よく見えている右側の視野をいかせるように、走行時の誘導は真ん中より少し右で行った。



取組み③ カードの活動『だれと、なにをする?』

見通しをもち、また、目的を意識できるように、活動前に①「誰に会いに行くか」、②「そこで何をするか」を自分で選択させた。①は高等部の友だち、②は「写真を撮る」、「おしゃべりをする」、「お手伝いをする」などのカードを用いた。理解しやすいように、言葉かけとともに写真を目の前で提示し、選択肢は2択までとした。



その後の様子・評価

- ・授業内の活動を 20 分ずつに分けたことで、以前よりもそれぞれの活動に集中して取り組むことができた。
- ・身体は左側に傾きがちではあるが、正しい姿勢で乗車して右側の視野を意識させることで、自分で頭の位置を戻そうとする様子が見られた。
- ・カードを選択するとき、希望するときは「はい」、嫌なときは「いや」と、はっきり言葉にし意思表示する姿がよく見られた。また、自分で設定した目標(どこで、何をするか)を意識している様子が見られた。
- ・目標の先に友だちや先生の存在を感じられることで、意欲的に活動することができた。